

地域のたから自慢の逸品

「仙台御筆・五色筆」  
仙台市博物館 囑託 倉橋 真紀

仙台御筆

仙台市内で現在も生産される工芸品には、仙台藩士の内職だったといわれるものや、伊達政宗が振興したといわれるものがあります。「みやぎ伝統的工芸品」に指定されている仙台御筆もその一つです。指定名には筆に「御」が付けられています。江戸時代の記録にも「御筆」と書かれているものがあります。それは藩の御用に関わる高級品のみのことです。仙台藩では、藩の所有するものや藩主に献上する物品に「御」を付けて呼んでいました。現在生産される上質な工芸品としての指定名を「仙台御筆」としたのはその由来を意識してのことでしょう。

「みやぎ伝統的工芸品」の指定条件には、五〇年以上長く継続して作成されていることという要件があり、江戸時代から続く技術を継承しているものが多く含まれるのです。藩政時代初期に、さまざまな産業を振興したことで有名な伊達政宗ですが、毛筆製作の技術を導入したのもやはり政宗だといわれています。豊臣秀頼の右筆で、後に政宗に仕えた和久安の紹介により、優秀な筆職人、小村又兵衛を大坂から招き、藩の御用筆を作らせました。その小村家は、多くの弟子を育て、藩の職人でありながら、一般にも販売したことが、大正六年（一九一七）の『藩祖以来仙台物産誌』に記されています。

五色筆

時代は変わって明治九年（一八七六）、明治天皇が仙台に行幸した際には、一三代小村長三郎が「五色筆」を天覧に供し、明治四〇年に伏見宮内親王から五〇箱もの買い上げを受けると、「五色筆」の名前とともに、仙台筆の品質の高さは全国的に有名になったようです。

さて、その「五色筆」とはどのようなものだったのでしょうか。一三代長三郎が製作したのは、五代儀左衛門が仙台藩領内の名所などに取材して作成するようになったといわれる「名取川の蓼」「宮城野の萩」「末の松山緑松」「実方中将片葉の薄」「野田の玉川三角霞」をそれぞれ筆軸として利用した、雅趣に富むものでした。ただし、江戸時代に仙台筆として名が知られていたのは、「宮城野萩軸」「末松山緑軸」のみだったようです。このコーナーで何度か登場している文政二年（一八二九）の『仙台領高名競』でも「日本かくれなきもの」とされているのはこの二つのみでした。

その後の仙台筆

小村家以外にも仙台筆の製法を受け継ぐ家があり、仙台の毛筆生産量は、大正四年には三三六、九五〇本を数え、大正六年には製造戸数二二戸、従業者三三〇人余だったと

記録されています。しかし、その後、仙台は産地として継続できませんでした。「五色筆」の製造も大正ころまで。現在、伝統的工芸品として製造されているのは、「五色筆」のうち萩軸のもののみとなっています。

仙台筆の製作は、非常に手間と時間がかかり、品質は高くても大量生産が難しくかつたことも影響しているようです。例えば全国的に有名な熊野筆は、毛先をまつすぐに揃えるため火のし（アイロン）を使用するのですが、仙台筆は同じことをするために、毛を煮て熱いうちにクシを通し、同時に悪毛を取り除くそうです。もちろん筆需要の減少も理由の一つでしょう。大正の半ばには小学校の筆記具が毛筆から鉛筆へと切り替えられるなど、日常の筆記具はペンや鉛筆が一般的になっていきました。実は、この仙台筆と鉛筆には不思議なつながりがあるのですが、それはまた別の機会に。

自然の素材を利用している五色筆の軸は節や曲がりがあるて使いにくそうにも見えます。しかし、この五色筆を愛用の方のお話では、曲がりや手に馴染むし、なんとも穂先がとてもしやすいのだとか。使えばわかる伝統の技術ということ。残してほしい逸品です。



昭和60年（1985）、みやぎ伝統的工芸品に指定された時に復刻された「五色筆」。穂の根元は五色に染められている。筆軸は上から蓼・萩・松・薄・霞を使ったもの。

特別展  
日本絵画に描かれた  
木と花の美

# 樹木 礼賛

A Tribute to Trees  
Beauty of Trees and Flowers in Japanese Painting

——杜の都の博物館が、この秋、展示室も樹木でうめつくされます。

長谷川等伯筆「松林図屏風」(前期)・円山応挙筆「雪松図屏風」(後期)の2件の国宝も出展!

観覧料 一般:900円 大学・高校生:500円 小・中学生:200円

開館時間:午前9時~午後4時45分(最終入館午後4時15分)  
会期中の休館日:月曜日(10月13日、11月3日は開館)、11月4日(火)

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)  
TEL:022-225-3074 仙台市博物館  
http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/ SENDAI CITY MUSEUM

平成26年9月26日(金)~11月9日(日)【期間中展示替えあり】前期:9月26日(金)~10月19日(日) 後期:10月21日(火)~11月9日(日)

■主催:仙台市博物館、文化庁 ■共催:河北新報社、NHK仙台放送局  
■後援:毎日新聞仙台支局、読売新聞東北総局、産経新聞社東北総局、日本経済新聞社仙台支局、仙台リビング新聞社、TBC東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、KHB東日本放送、エフエム仙台、ラジオ3FM76.2